

令和6年度

新野東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけ、自ら考え、判断し、表現することができる子どもを育成するための指導の充実
- 学習習慣を身につけさせ、根気強く課題に取り組むことができる子どもを育成するための指導方法の工夫

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員
- 委員
- 校長
- 教頭
- 研修主任
- 教務主任

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○算数の学習では、タブレットを活用し、自分の学習状況に応じて内容を自ら選択して、学習できるようになってきた。 ●初見の長文を読む経験が少なく、内容を読解することが難しい。	・タブレットを効果的に活用し、基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・最後まで長文を読み、内容を理解することができる。	・既習内容の定着を図るため、タブレットドリルを有効活用する。個別学習にも対応できるようにする。 ・新聞や学力向上に関するプリントを読む機会を計画的に設け、国語力の向上を図る。(朝の活動、授業中など)			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全校的な活動の場で、自ら発言できる児童が増えてきた。理由や根拠を明確にし、相手に伝わるような表現ができるようになってきた。 ●習得した知識・技能を活用し、感想や要約などを文章で表現することには、苦手意識がある。	・様々な相手や場面で、自分の意見を積極的に発表することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、感想や要約などの文章表現に生かすことができる。	・集会など全校的な活動だけでなく、他校との交流を設定するなど、児童が自分の思いや考えを伝える新たな場の工夫をする。 ・日記や感想文などを書く機会を多く設定し、学習したことを文章表現に生かす学習を計画的に取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の自主学習を見ることで、学習の仕方が分かり、様々な内容に積極的に取り組むようになってきた。 ○日頃から家庭学習に並行読書を取り入れたことで、平日の読書時間が増えた。 ●家庭学習に主体的に取り組むことができない児童が多い。	・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習に取り組むことができる。 ・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけて取り組むことができる。 ・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。	・自主学習に関する指導方法について教職員間で情報交換し、効果的な取り組みにつなげていく。 ・読書の幅を広げるために、図書室の活用方法を考える。(読書の時間・雨の日など) ・平日、週末の並行読書に、引き続き積極的に取り組む。			

